

中信ビジネス情報誌

ハナナハ たのた

2023 Vol.153
Business information magazine

特集「伝統を継ぐ」

陶製モザイク作家 池田 泰佑

「経営者列伝」
真摯な姿勢を貫いて
ものづくりの先端に貢献
株式会社 山中精工所

「この企業にこの技あり」
生物多様性をデジタル化し、
環境保全をビジネスにする
株式会社 バイオーム

「景気動向調査」

不揃いの
ピースたち。

特集「伝統を継ぐ」

陶製モザイク作家 池田 泰佑 氏

1943年、池田泰山の孫として京都に生まれる。1968年、金沢美術工芸大学彫刻科卒業。日展(彫刻)入選2回。1969年から73年まで、泰山製陶所に勤務。工房閉鎖後は、京都市工業試験場(現・京都市産業技術研究所)に95年まで勤務。京都・山端郵便局モザイク制作、東京M邸玄関床・外壁面一部モザイクタイル制作など、多数の建築装飾を手掛ける。並行してライフワーク『森の向こうに…』シリーズで個展を開催。

不揃いのピースたち。

Special Feature

Traditional arts and crafts

音楽を奏でようとして、
楽器づくりの修業から始める人がいるだろうか。

あるいは、その楽器を作るために

山に入って木を切り出す人が、

さらにその木を植えようとする人が。

だが、歴史を紐解けば、

人類はまさにそういうことをしてきたのだ。

メソポタミアや古代ローマ、

イスラム帝国の建築を彩ってきた

モザイクアート。

手間をかけること、迂回すること、そして、

その果てに成立する唯一無二の美。

その遠い血脈を、

池田泰佑さんの仕事は受け継いでいる。

わっ、わっ、池田先生、何をされるんですか！

と、思わず声を上げそうになる。丁寧な型をと
り、独自のレシピで調製された釉薬を施した後、長
い時間をかけて酸素供給量を加減しながら焼成
したタイルは15センチ角、厚さわずか5ミリ。その
表面には、窯変によってもたらされた釉薬の絶妙
な色むらがガラス質の輝きを放ち、華やかでもあ
れば、はかなげでもある。それ自体、美術工芸品と
呼んでも差し支えないような美しいタイルを、池田
泰佑さんはこともなげに割り砕いていくのである。

「この欠片くずかけが大事なんです。小指の先ほどのもの
も残しておきますよ」。形も色調も様々なピース
を、泰佑さんは下絵に沿って並べていく。大小の
ピースが組み合わさって、画面には次第に奥行きと
陰影が生まれ、やがて一幅の絵が生成されていく。
最後の一片が置かれたときには、それまでの制
作過程を見ていた目にも、まるでボールが取り払わ
れて、一瞬にしてアートが降臨したように映る。こ
れが、集成モザイクタイル。池田さんが生涯をかけ
て追究してきた芸術ジャンルだ。

昭和戦前期、 建築家を魅了した泰山タイル。

京都市南区東九条。高瀬川のほとりに、

かつて「泰山製陶所」の看板を掲げた工場があった。泰佑さんの祖父・池田泰山が設立した陶磁器の生産拠点だ。泰山は明治24（1891）年、尾張知多郡の生まれ。明治42（1909）年、陶業を志して京都市陶磁器試験場に伝習生として入所し、さらに10年余り国立大阪工業試験所窯業部技手として奉職、その後、大正6（1917）年に泰山製陶所を創業した。伝統的な陶磁器を近代的な輸出産業として育成しようという国策もあり、当初、その製作品は花瓶、置物、陶額、盃、茶道具など、いわゆる日用工芸品だったが、やがて建築用資材としてのタイルの生産に移っていく。

当時、第一次世界大戦の終戦をほとんど無傷のまま戦勝国として迎えた日本では、大正バブルとも呼ばれる空前の好景気に突入し、資本と人口、そして技術が急速に都市部に集中していた。それは鉄筋コンクリートのビルがどんどん建っていく、街

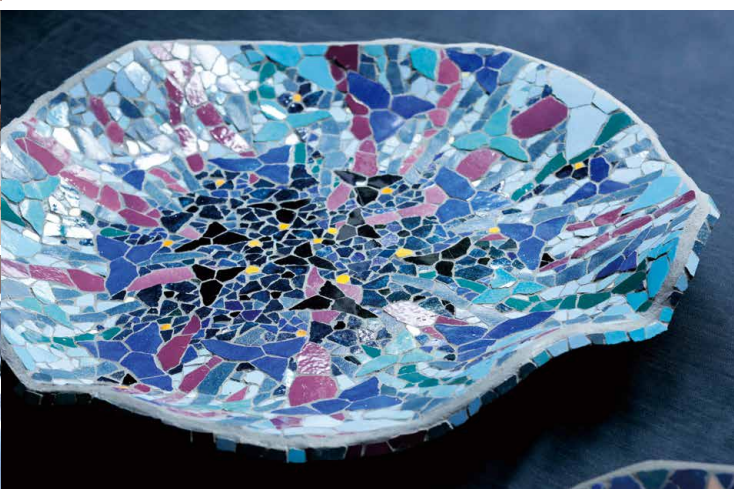
の風景が一変するような時代でもあった。

泰山製陶所のタイルは「泰山タイル」と呼ばれ、各宮家の邸宅や大阪綿業会館、東京帝大図書館、神戸女学院、下村正太郎邸（大丸ヴィラ）など、昭和戦前期を象徴する著名な建築物を彩ってきた。

泰佑さんは、金沢美術工芸大学彫刻科を卒業後、昭和44（1969）年、泰山

製陶所に入る。当然、三代目を期待されるの入社である。

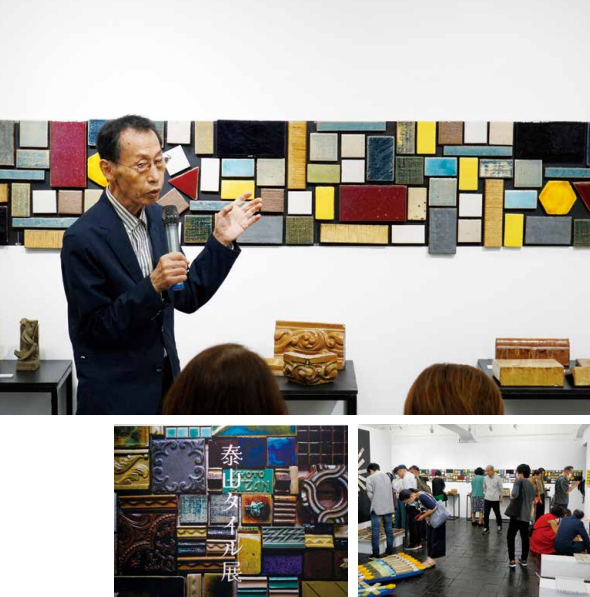
「私が小学校に入る前に祖父は亡くなっていますので、直に教えるを受けたということはほとんどないのです。その代わりに、ずっと祖父のもとで仕事をしてきた職人さんが、技術的なことはもちろん、ものづくりの精神のようなことまで伝えてくれました」



京都市登録有形文化財に指定されている1928ビルの地下にあるカフェレストラン「INDÉPENDANTS（アンデパンダン）」。壁や柱、床に配された泰山タイルが地下の空間を温かく彩っている。

通常、建築に使うタイルを発注するのは間屋か工務店。だが、泰山の元には建築家が直接、図面を携えてやって来た。その当時、すでに均質なタイルを大量生産するメーカーは成立しており、建築家としてもコストを考えるならばそういうところに間屋か工務店を通して発注した方がいいに決まっている。一方、手作りの泰山タイルは、釉薬の乗り方も発色の仕方も一つひとつ微妙に違っている。その唯一無二の表情が、建築家の美意識を刺激したのだろう。泰山は泰山で、図面を一瞥して「こういう場所やったら無理せんでも〇〇製陶さんのタイルでよろしいのとちやいますか」などと言うこともあったらしい。





6月27日～7月2日、1928ビル2階の同時代ギャラリーにて、タイルの卸売・施行を手掛け、泰山タイルの魅力発信にも取り組む中村タイル主催で「泰山タイル展」が開催された。

1日、トークイベントに登壇した泰佑さんは「泰山タイルの特徴は手作りであること。窯変による色味の個性にも注目してもらえたら」と語った。



無機質の空間に 人間の居場所をつくる。



入社後、間接的に祖父の薫陶を受けて来た泰佑さんは、陶彫壁画やモザイク壁画の依頼を受けて制作する一方、個展を開くなど、作家活動にも取り組んだ。ところが昭和48（1973）年、泰山製陶所は閉鎖されてしまう。高度経済成長、そしてバブル経済へ。手作りの少量生産タイルは、徐々にその居場所を失っていったのだ。茫然自失、泰佑さんがしばらく創作活動から離れていたのも無理からぬことではあった。

「京都市工業試験場（現：京都市産業技術研究所）に20年ほど勤務していました。スケッチだけは続けていたのですが……」やがて、古くからの友人や昔の泰山タイルを知っている人たちから、依頼が入り始めた。

区役所や郵便局、学校などの公共施設やマンション、個人の邸宅など。真新しく均質で、無機的ともいえる空間に、泰佑さんの陶製モザイクはある種の揺らぎと温かさをもたらす。不揃いのピースたちが、こは人間の居場所なのだよ、と境界を張っているようだ。「依頼された仕事ですから、施主さんの注文は全部お聞きします。そこに住む方、利用する方が納得して、気持ちよく過ごしていただけるのが何よりです」

並行して、『森の向こうに……』と題する創作を続け、10回にわたって個展を開催してきた。現在79歳。創作意欲は衰えを知らない。

近年、レトロ建築を見て廻ることがブームのようになっていて、人々が泰山タイルを

目にする機会も増えてきた。先に挙げた大規模な建築ばかりではなく、街の銭湯や小さな旅館、喫茶店などにも泰山タイルは使われていて、それを発見することは愛好家にとって宝探しのような楽しみにもなっている。あの建物のアレ、泰山ですか？ そんな問い合わせが、泰佑さんのところにも来る。「お尋ねがあれば、できる限り見に行くようにしています」という泰佑さん。泰山の仕事を語り継ぐことも、自らの役割と任じているのだろう。

——タイルは、あまたある建材の一つである。だが、その一枚のタイルは美しくあらねばならない——

泰山が残した言葉である。京阪神をはじめ、全国各地で開発の波に抗いながら残ってきた泰山タイルは、割れ散ったピースのようだ。その点と点を愛好家たちの活動が線で結び、泰佑さんの仕事、その価値を現代に伝える。一枚のタイルは美しくあらねばならない……長い時を隔てて、最後のピースが、埋まった。

真摯な姿勢を貫いて

ものづくりの先端に貢献

株式会社 山中精工所

代表取締役 会長 山中 喜久雄氏（左） 代表取締役 社長 山中 喜郎氏（右）



半導体製造装置に代表されるマザーマシン、さらには精密さが要求される試験機。山中精工所はその確かな技術力で、誰もが知る大企業に信頼されている。京のものづくりを裏方から支えること1世紀近く、決して派手とはいえないながらも欠くことのできない地位を築くに至るまでには、どのような歩みがあったのか。そして、生産現場のありようが大きく変容する時代を迎えて、どのような未来像を描いているのか。4代目社長の山中喜郎氏のもとを訪ねると、実直な企業姿勢が浮かび上がった。

ワンストップの対応力で 先端技術を強力にサポート

当社の創業は昭和初期、私の曾祖父が技術者を伴って計数器や圧力計のメーターをはじめとした計測機器の製造を始めたことルーツとしています。戦時中は海軍の軍需工



▲少量多品種・一貫生産が強み。試作品の製造依頼も多く、取引先の設計技術者とわたり合いながら、最先端のものづくりの一翼を担っている。

場に指定を受け、潜水艦の深度計などを手がけていたものの、終戦を受けて工場を畳むことに。それから半年ほどの空白期間を経て操業再開のきっかけを与えてくれたのは、かねて付き合っていたメーカーからのオファーでした。心機一転、それまでの日本精密器械製作所から山中精工所に名を変えて、直示天秤の部品や素材の強度を測定する材料試験機などを製造。その後、法人成りを経て昭和36年に現在地に移転すると、産業機器や半導体といった領域にも進出するようになりました。

現在、当社の主力製品となっているのは半導体製造装置に代表されるマザーマシンや自動車部品の試験機。同一規格のものを大量生産するのではなく、オーダーメイドのものづくりを得意としており、祖業である部品加工はもちろん組み立てまで一気通貫で対応できるのが、競合他社との大きな違いです。そこからさらに発展する形で力を入れるようになったのが、自動化技術の導入。近年、高まりつつある省人化ニーズに対応しようと、材料をセットするだけで製造工程が完結するラインを構築することで、お客さまの業務効率化をサポートしています。

伝統と革新を融合させて さらなる顧客満足を追求

お客さまと向き合ううえで大切にしているのは、きめ細やかなコンサルティングです。自動車業界を例に取れば、砂漠や多雨地域によ



▲「お客様との和」「地域との和」「従業員との和」をモットーに歩みを続けてきた。

和を重んじた経営で 難局を乗り越える

会長の喜久雄氏によれば、社長在任時の2008年に起きたリーマン・ショックは山中精工所の経営に大きな影を落としたという。業務量は目に見えて激減したが、早々に「絶対にリストウはしないと宣言。自らの報酬も率先してカットし、陽はまた昇ると信じて忍耐のときを過ごした。

転機となったのが2011年7月に発生したタイでの洪水だ。主要

顧客メーカーの現地工場が甚大な被害を受けたとの報を受け、全社一丸となって復旧作業に従事した。結果、その顧客は日系企業でもっとも早く生産再開にこぎ着けた。それまでの信頼はより強固なものとなり、受注が増え、業績が上向き始めた。当時を振り返った喜久雄氏は「改めて社員の底力を感じた出来事で、まさに雨降って地固まる、だった」と目を細めた。これも顧客や従業員との和を尊ぶ山中精工所ならではのエピソードといえるだろう。



▲三次元測定機で検査を行う技術者。高精度な最新検査機器を用い、山中精工ならではの品質を担保している。

うな過酷な気候条件でも安全に動作する製品を作らなければなりません。そのため性能試験に1年を費やすことも少なくなく、試験機にも相応の精度が求められるわけです。そこで、数年は設計部門の強化に着手。従前は客先から持ち込まれた図面が発発地点でしたが、開発の上流を押さえて相談ベースの生産体制を整えることで、当社のモットーである品質・価格・納期の三大要素をより高い次元で満たせるよう尽力しています。

一方では生産性を追求すべく、加工部門には最先端の工作機械を惜しみなく投入。自社においても生産の自動化を進めるとともに、定期的なジョブローテーションを通して誰もが補い合える組織への脱皮を図っています。とはいえ少量多品種の製品づくりを

行う以上、臨機応変な対応が求められる場面もしばしば。材料によって削りやすさ、反りやすさに違いがあり、その扱いは単純に数値化できるものではありません。そういったケースで威力を発揮するのがベテランのノウハウ。材料の押さえ方やラインの速度を微妙に調整する感覚は、若手にも着々と受け継がれています。

価値ある仕事を重ねた先に 明日の山中精工所の姿がある

これからの山中精工所が目指すべきは、やみくもな業容拡大より付加価値を追求することだと考えています。十分な利潤を確保すれば社員にも還元することができま

また「山中なら困ったときになんとかしてくれる」というポジションをより明確にし、「Made by YAMANAKA」のブランド力を地道に磨き上げること——AIや3Dプリンタの発達で、試作という営み自体が簡便になる時代を生き抜くには、そこそがもっとも重要なスタンスだと思っています。

製品の組み立てそのものをこなすことは、何も特別な技術ではありません。しかし、きちんとした機能や付加価値を備えようと思えば、図面には書かれていない情報を読み解く技術が必要になる。その勘所を押さえられるのが、私たちの最大の武器です。今後ともお客さま、地域、従業員それぞれとの和を大切に、強みを活かした経営を貫きたいですね。



株式会社 山中精工所

〒604-8492
京都府京都市中京区
西ノ京右馬寮町16-1
TEL:075-811-5101
URL: <https://yamanaka-seikou.co.jp>

沿革

- 1931年 京都市中京区西ノ京南上合町に山中松治郎が有限会社日本精密器械製作所を創業
- 1946年 終戦後、個人企業として山中精工所を創立
- 1950年 資本金50万円で株式会社山中精工所を設立
- 1961年 本社新社屋を現在地へ新築移転
- 1984年 二条工場を開設
- 1988年 本社新社屋竣工
- 2005年 ISO9001:2015認証を取得
- 2018年 中京税務署より優良申告法人認定を受ける
- 2019年 本社新工場竣工
- 2021年 事業継続力強化計画認定を受ける



この企業に この技術あり

Vol. 19

株式会社バイオーム
Biome Inc.

生物多様性をデジタル化し、
環境保全をビジネスにする

代表取締役の藤木庄五郎さんは学生時代、「生物多様性の定量化技術開発」をテーマに研究の日々を送っていた。担当フィールドはボルネオ島。現場のデータを収集するため、現地調査をしたこともある。車さえ入れないジャングルの奥地での野宿生活は過酷を極め、時には熱病に侵されながらも、2年あまり調査を続けたという。

「360度地平線まで見通せるほど、木が切り尽くされた場所も多くありました。ボルネオは生物の宝庫であると同時に、環境破壊の最前線でもあったんです」
木を伐採し加工するには、多大なコストと労力がかかる。現地の人々の多くはそれで生計を立てており、いわば「環境を壊した方が儲かる仕組み」ができていた。人々の生活を否定することはできないが、一方で環境保全の領域は「ボランティアで取り組むもの」という意識が根強かった。「この価値観を覆して、環境

保全のビジネスモデルをつくりたい」と考えた藤木さんは、一念発起して研究者を辞し、営利企業として同社を立ち上げた。

みんながでつくる
生物多様性のビッグデータ

環境保全をビジネスとして成立させるべく、藤木さんが取り組んだのが、かつての研究テーマと同じ「生物多様性を定量化する事業」だった。

「企業として環境保全に取り組むためには、『温室効果ガス排出量実質ゼロ』のように、具体的な数字を示すことが必要でした。生物の場合は、立体座標を用いて生息場所や存在量を数値化することができます。その『分布情報』を収集し、ビジネスに活用できる技術にしようと考えたんです」

しかし、未分類のものも含めると国内だけでも30万種を超える生物が生息してお





データ収集の手札を増やし グローバル企業へ

代表取締役 藤木 庄五郎 氏

生物多様性の保全は、土地利用の問題と深く関連しています。その土地を開発して工場を建てるのか、保護して自然を維持するのか。開発をすすめるのであれば、それによって損なわれる生態系はないか。業界によって生物との関係性は異なるので、それぞれの企業において、ビジネスの中で生物多様性がどう生きてくるかを毎回考えて提案しています。今後はAIやIoTデバイス、衛星通信なども活用しながら、データ収集の方法を増やしていきたいと思っています。また、世界への展開は創業当初から考えていた重要な目標でもあるので、日本のみならず世界中の生物多様性をリアルタイムで監視し、環境保全につなげていければと考えています。



誰でも本格的な調査ができるアプリ「Biome Survey」は企業や自治体での導入が進められている。



【本社オフィス】
〒600-8813
京都府京都市下京区中堂寺南町134番地
ASTEMビル8階

【四条烏丸オフィス】
〒600-8431
京都府京都市下京区綾小路通新町東入
善長寺町143 マスギビル 305

TEL : 075-432-7622

り、収集は容易ではない。そこで同社が開発したのが、いきものコレクションアプリ「Biome」だ。撮影された生物の画像をAIが判別し、提示された候補の中からユーザー自身が生物名を確定し投稿することで、同社にデータが蓄積されていく。だが、このシステムでは間違った情報を収集することもあり得る。

「間違いやすい種の見分け方、のようなコンテンツを発信し、正しい情報を学ぶサポートをしています。加えて、ユーザー同士で間違いを指摘し合ったり、質問したりすることもできるため、詳しい方々の指摘などを受けて、データは自ずと正解に近づいていくんです」

現在、ユーザー数は77万人にのぼり、興味本位で始めた人からその道の研究者まで、実にさまざまな人がこのアプリを活用している。生物の豊かさにふれることで、自分の

環境保全を支える、 リアルタイムデータ

2021年には「TNFD」（自然関連財務情報開示タスクフォース）が設立され、企業や金融機関では、自社の事業活動が自



最新の生物名判定AIを備える「Biome」。ただコレクションするだけでなく、ユーザーが楽しめるようさまざまなコンテンツを備えている。

人生が豊かになる。その感覚が、環境問題を自分事として考える意識につながっていくと、藤木さんは考えている。

然環境に与える影響を開示する動きが活発化しているなど、自然環境保護への意識はますます高まっている。ここで、同社がリアルタイムで収集している生物の定量データが役に立つ。例えばメーカーには原材料調達地があり、その土地にも生物が生息している。そうした現地の状況を把握し、必要な対策を考えるサポートをすることが、メイン事業の一つになっているという。

データの活用方法は情報開示だけではない。同社では現在、外来種駆除や密猟対策など、環境保全に関する商品を約30種類展開している。ベースとなるのは全て同じデータだが、そのどこを抽出し、どんな意味づけをするかに応じて無数のパッケージを生み出すことができるのだ。

「病気の感染経路を特定して拡大を防いだり、開発エリアを制限して絶滅危惧種を保護したり…。生物多様性のデジタル化には、

まだまだ可能性があると思っています」

生物多様性のデータは、環境保全を考える上でなくてはならないものだ。そのデータを保有し必要な対策を講じる同社もまた、地球にとってなくてはならない存在になっていくだろう。



今年4月に移転したというオフィス。フルリモートも含め35人が働く同社には、毎日1万件を超えるデータが集まってくる。

調

査リポート

2023年6月期「中信景気動向調査」結果より

景気動向の概要

業況D.I.は、

前期比15.6ポイントの改善

地元中小企業の経営環境は、前回調査

時から15.6ポイント改善の△14.6となりました。業種別では製造業(13.6ポイント増加)、卸売業(15.5ポイント増加)、小売業(29.9ポイント増加)、サービス業(24.1ポイント増加)、建設業(4.7ポイント増加)、不動産業(15.9ポイント増加)と全業種で改善となりました。5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行したことも影響し、インバウンド需要の持ち直しやイベント開催に伴う人出の回復など、アフターコロナの動きが加速しています。前回調査では回復のペースがやや足踏みした地元中小企業の景況感は、旅行需要など個人消費関連を中心に幅広く上向いており、小売業やサービス業など一般消費者を対象とする業種で大幅な改善が見られました。

業況D.I.の2023年9月期予想は、全業種平均で今期比3.9ポイント増加し改善で推移すると予想しています。業種別では、製造業(3.3ポイント増加)、卸売業(6.0ポイント増加)、建設業(10.8ポイント増加)、不動産業(4.9ポイント増加)は改善を予想、小売業(4.6ポイント減少)、サービス業(0.1ポイント減少)は悪化を予想しています。売上D.I.については全業種平均で0.7ポイント減少の悪化、収益D.I.についても全業種平均で3.2ポイント減少の悪化を予想しています。

今後の見通しについて、インバウンド消費の拡大をはじめとする個人消費増加により経済活動は緩やかに回復していくと予想されますが、ロシア・ウクライナ情勢や人手不足の長期化、原材料価格の高騰や不十分な価格転嫁の状況など、企業を取り巻く環境は厳しい状況が続きます。引き続き原材料価格の動向や海外情勢などに注視する必要があります。先行きの不透明感が漂うなか、地元の中小企業を取り巻く経済情勢の動向が注目されます。

調査要領

全体	658社	(調査時点 2023年5月)
製造業	222社 (33.7%)	サービス業 79社 (12.0%)
卸売業	94社 (14.3%)	建設業 130社 (19.8%)
小売業	87社 (13.2%)	不動産業 46社 (7.0%)

対象範囲 京都府内、一部の滋賀・大阪・奈良の当庫取引先933社

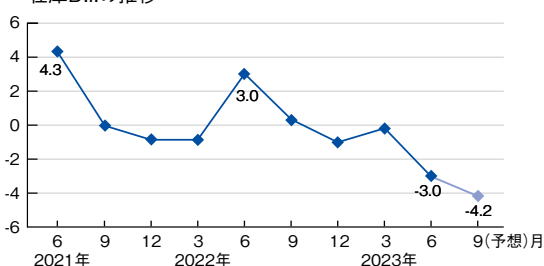
回答数 658社 回答率 70.5%

分析方法 D.I.(Diffusion Index)による

*D.I.=[増加(増加+やや増加)と回答された企業割合-「減少(減少+やや減少)と回答された企業割合]

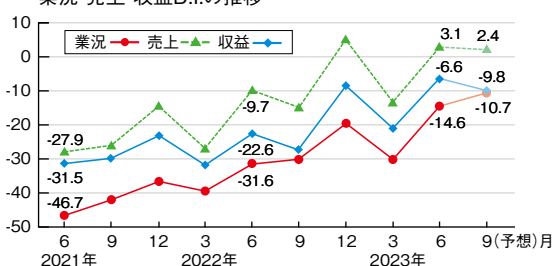
在庫 | 在庫D.I.は下降

在庫D.I.の推移



業況 | 業況・売上・収益D.I.はすべて改善

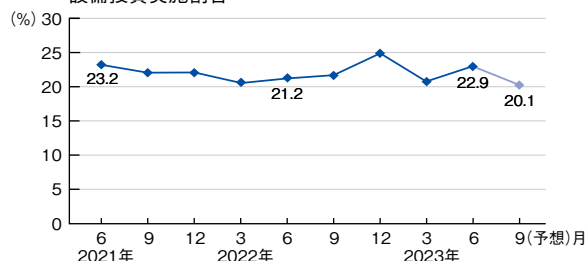
業況・売上・収益D.I.の推移



全業種

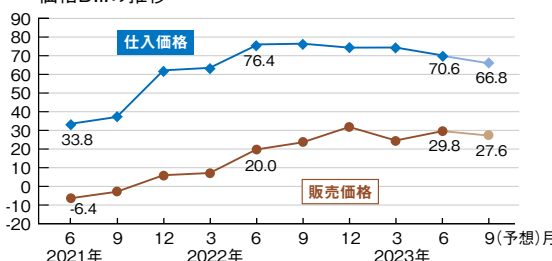
設備投資 | 依然として設備投資には慎重

設備投資実施割合

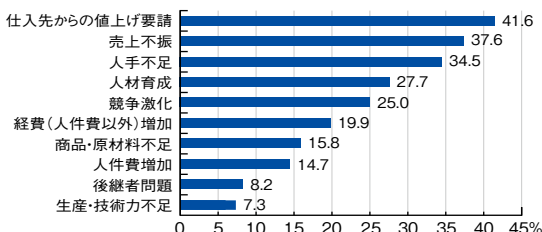


価格 | 販売D.I.は上昇、仕入価格D.I.は下降、乖離幅は縮小

価格D.I.の推移

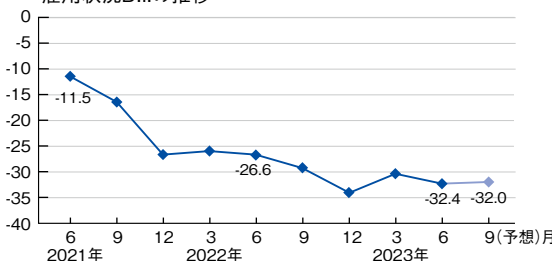


経営上の問題点 | 「仕入先からの値上げ要請」が深刻

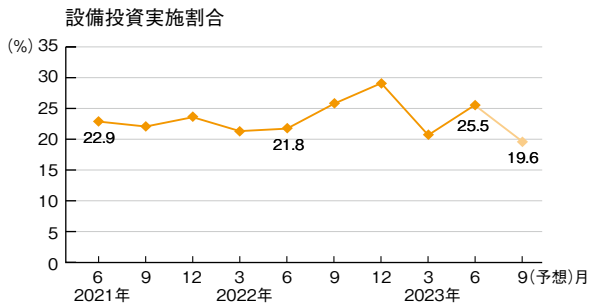


雇用状況 | 雇用D.I.は下降

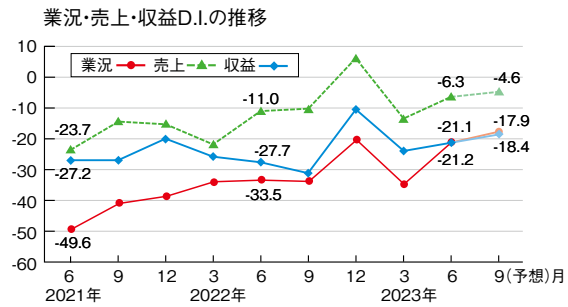
雇用状況D.I.の推移



設備投資 | 依然として設備投資には慎重



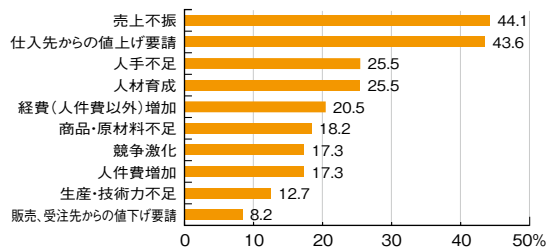
業況 | 業況・売上・収益D.I.すべて改善



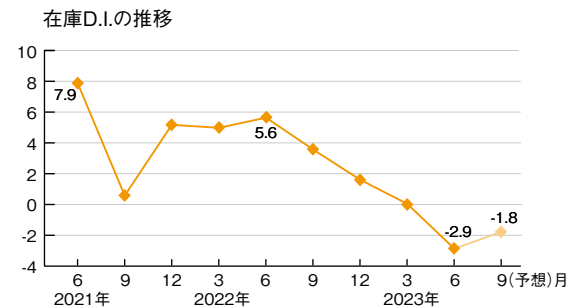
製造業

雇用状況 | 雇用D.I.は上昇

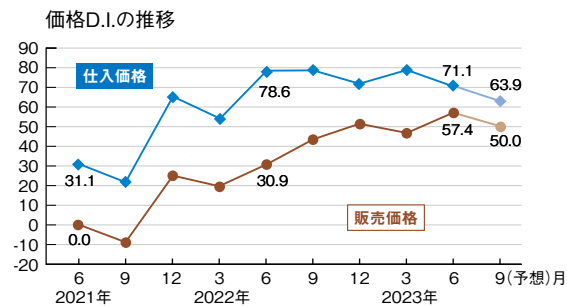
経営上の問題点 | 「売上不振」と「仕入先からの値上げ要請」が深刻



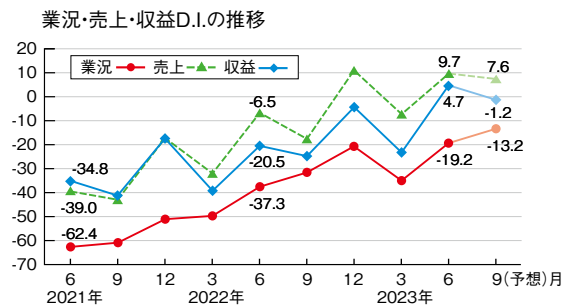
在庫 | 在庫D.I.は下降



価格 | 販売D.I.は上昇、仕入価格D.I.は下降、乖離幅は縮小



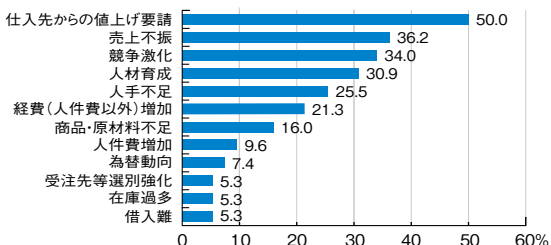
業況 | 業況・売上・収益D.I.はすべて大幅に改善



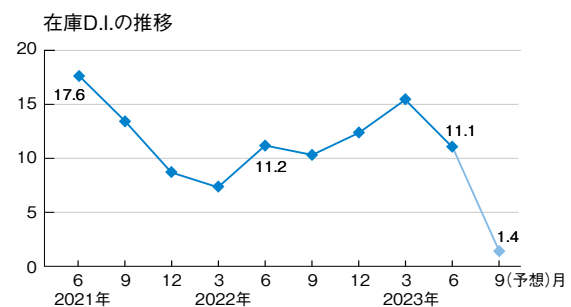
卸売業

雇用状況 | 雇用D.I.は上昇

経営上の問題点 | 「仕入先からの値上げ要請」が深刻



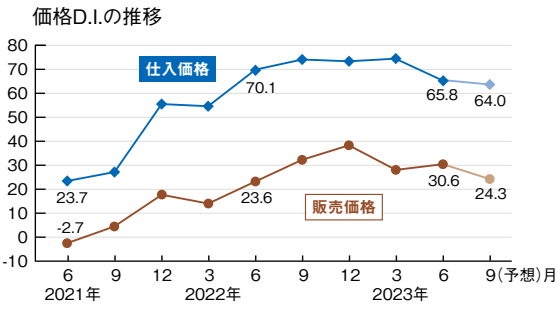
在庫 | 在庫D.I.は下降



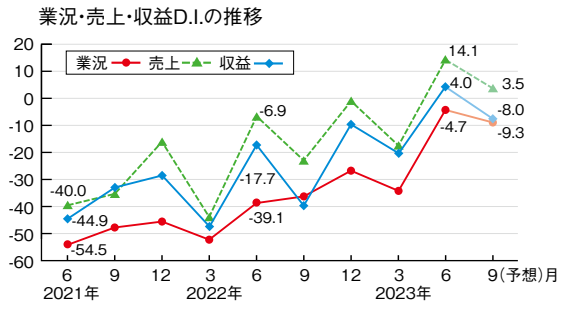


小売業

価格 | 販売価格D.I.は上昇、仕入価格D.I.は下降、乖離幅は大幅に縮小

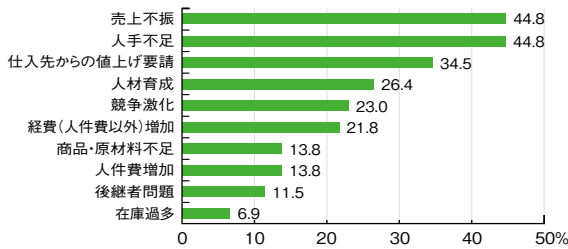


業況 | 業況・売上・収益D.I.はすべて大幅に改善

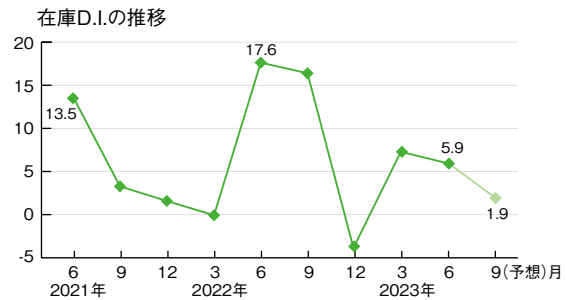


雇用状況 | 雇用D.I.は大幅に下降

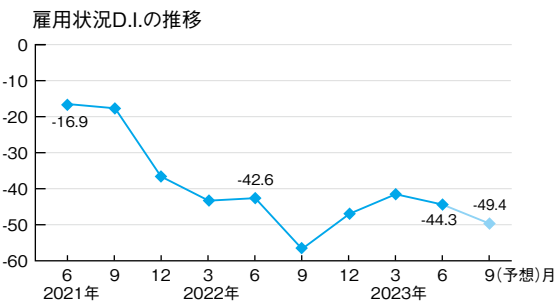
経営上の問題点 | 「売上不振」、「人手不足」が深刻



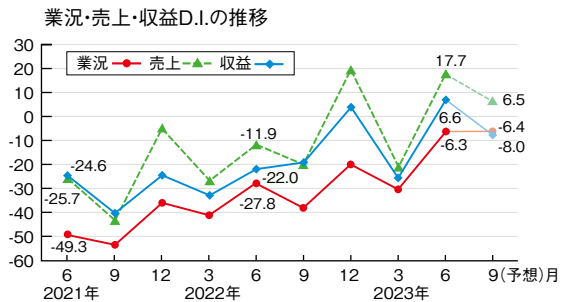
在庫 | 在庫D.I.は下降



雇用状況 | 雇用D.I.は下降

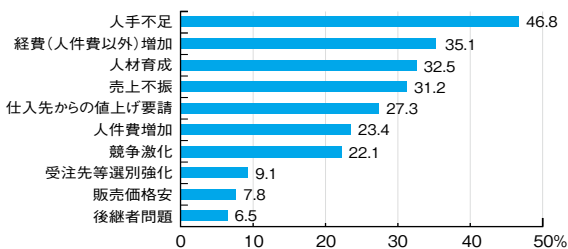


業況 | 業況・売上・収益D.I.はすべて大幅に改善

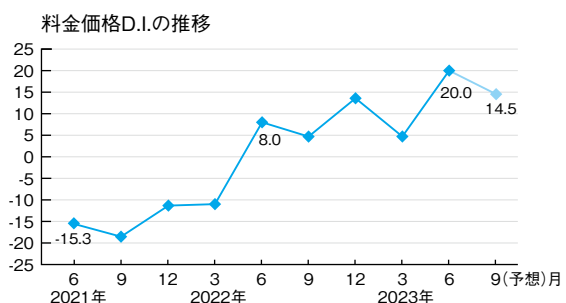


サービス業

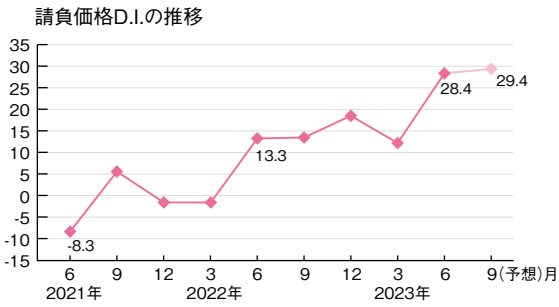
経営上の問題点 | 引き続き「人手不足」が深刻



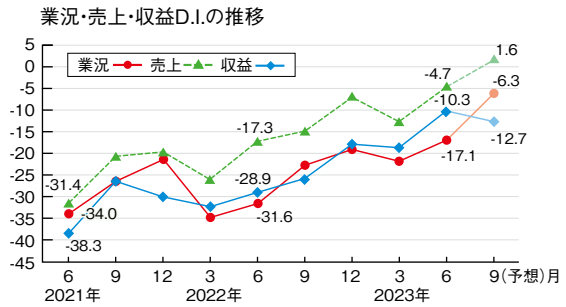
価格 | 料金価格D.I.は大幅に上昇



価格 | 請負価格D.I.は大幅に上昇

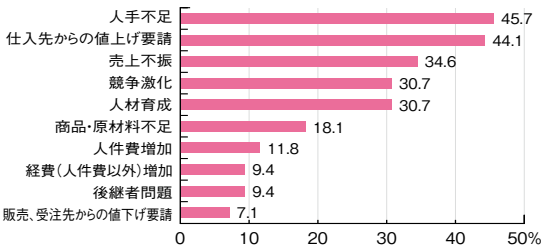


業況 | 業況・売上・収益D.I.はすべて改善

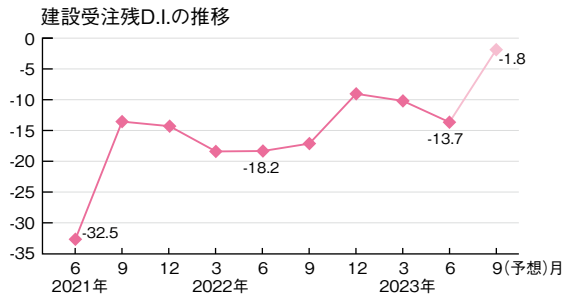


雇用状況 | 雇用D.I.は下降

経営上の問題点 | 「人手不足」が深刻



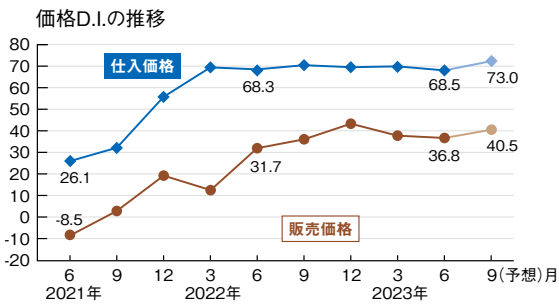
受注残 | 受注残D.I.は下降



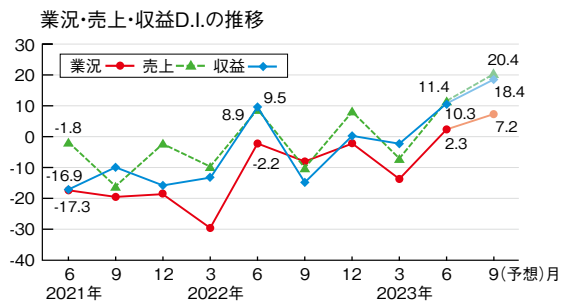
施工高 | 施工高D.I.は上昇

在庫 | 在庫D.I.は下降

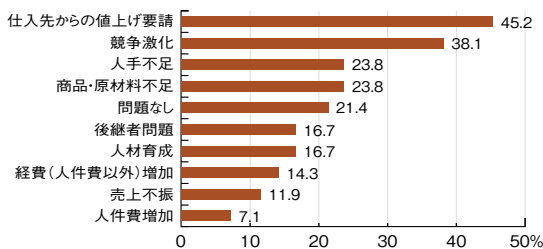
価格 | 販売、仕入価格D.I.はともに下降、乖離幅は縮小



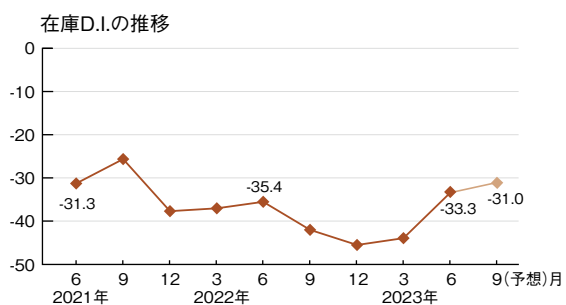
業況 | 業況・売上・収益D.I.はすべて大幅に改善



経営上の問題点 | 「仕入先からの値上げ要請」が深刻



在庫 | 在庫D.I.は上昇



「アフターコロナと中小企業」について

調査先数 933社
有効回答数 658社
調査日 2023年5月

1 政府が企業に対して賃上げを要請していますが賃上げ、もしくは一時金の支給を実施しましたか。また、実施した場合はその原資は何か。

賃上げの実施については、「賃上げはしていない」が46.0%と約半数を占めました。原資としては「販売価格の引上げ」が18.7%と最も多く、次いで「内部留保の取り崩し」が14.6%となりました。一時金支給の実施については「一時金は支給していない」が74.3%と75%近くを占めました。原資としては「内部留保の取り崩し」が8.6%と最も多く、次いで「経費の節減」が7.9%となりました。

2 昨今の原材料・仕入価格の上昇分や電力・エネルギー価格の上昇分相当を、販売価格に転嫁（上乗せ、値上げ）できていますか。

原材料・仕入価格については、「やや転嫁できている」が43.2%と最も多く、次いで「転嫁できていない」が26.7%となりました。電力・エネルギー価格については、「転嫁できていない」が53.9%と過半数以上となっており、電力・エネルギー価格の上昇分相当の価格転嫁が遅れているようです。

3 新型コロナウイルス感染拡大から3年が経過しましたが、現在の売上について、感染拡大前（およそ3年前）と比べ、どの程度となっていますか。

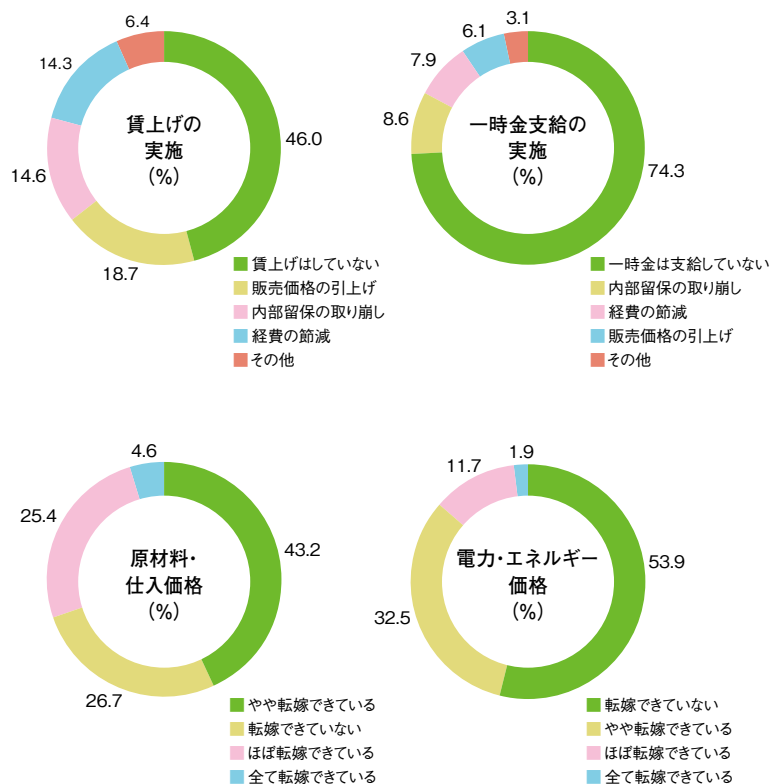
新型コロナウイルス感染拡大前（3年前）と比べた現在の売上については、「ほぼ変わらない（90～110%）」が34.5%と最も多く、次いで「やや減少（71～89%）」が29.1%、「やや増加（111～150%）」が19.8%となりました。

4 3～5年後に向けて、現在の事業をどのように展開していきたいとお考えですか。

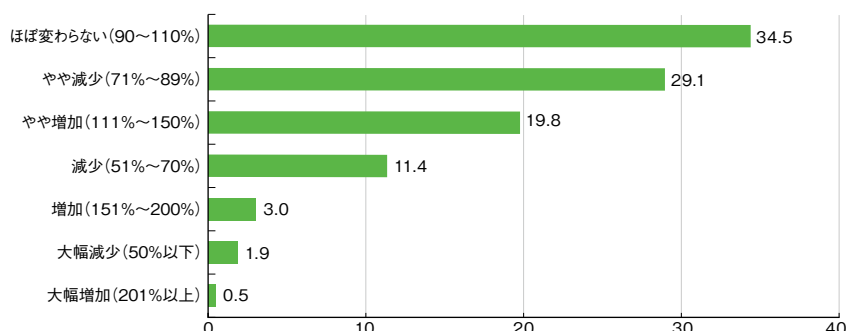
「現在の事業を、現状のまま継続したい」が41.7%と最も多く、次いで「新しい販路市場を開拓したい」が30.6%、「新しい製品・商品・サービスを開発したい」が17.3%となりました。

5 人材確保のための職場環境改善へ向けて実施していることはありますか。

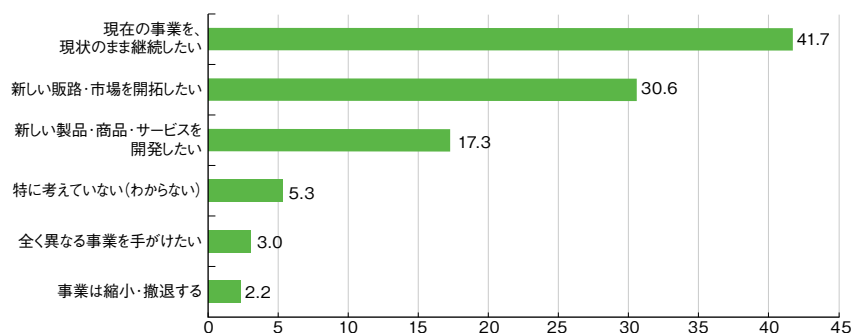
「賃上げ等、待遇面の改善」が28.0%と最も多く、次いで、「特になし」が16.4%、「ワークライフバランスの充実（長時間労働是正等）」が13.2%となりました。人材不足が深刻化するなかで、賃上げ・待遇面の改善に取り組む企業が多いようです。



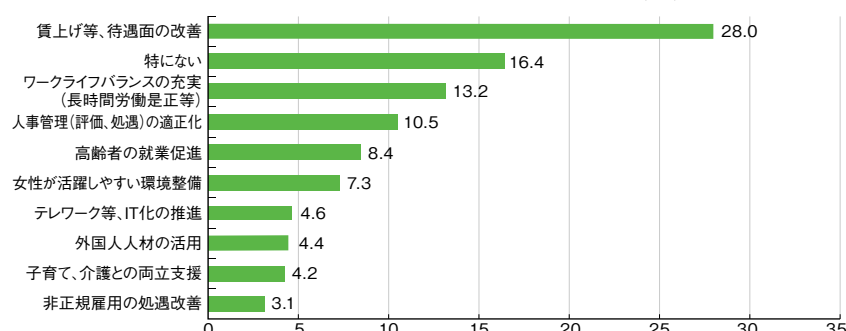
新型コロナウイルス感染拡大前（およそ3年前）と比べた現在の売上 (%)



3～5年後に向けて、現在の事業をどのように展開していきたいか (%)



人材確保のための職場環境改善へ向けて実施していること (%)



「今年の夏季ボーナス支給予定」について

各グラフの凡例

2021年	2022年	2023年
■	■	■

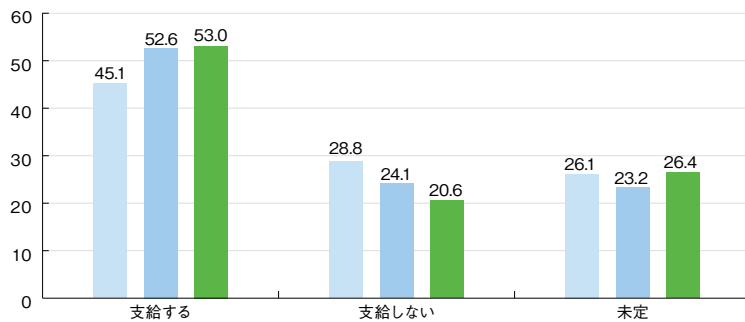
調査先数 933社
有効回答数 658社
調査日 2023年5月

1 今年の夏季ボーナス支給の有無(予定)について

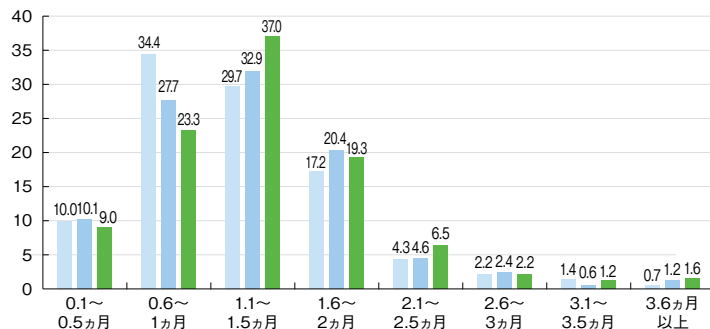
「支給する」が増加

「支給する」は53.0%で前年比0.4ポイント増加し、「支給しない」は20.6%で前年比3.5ポイントの減少となりました。「未定」は、26.4%で前年比3.2ポイントの増加となりました。

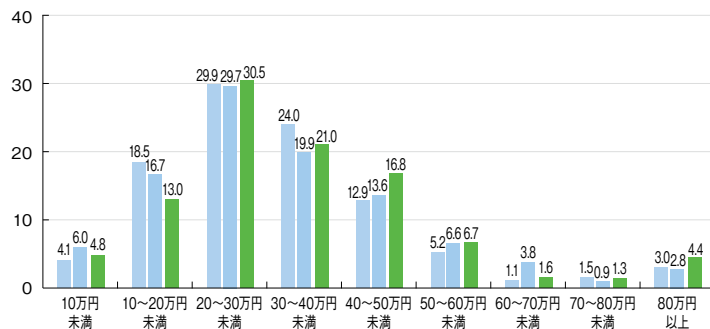
夏季ボーナス支給予定(%)



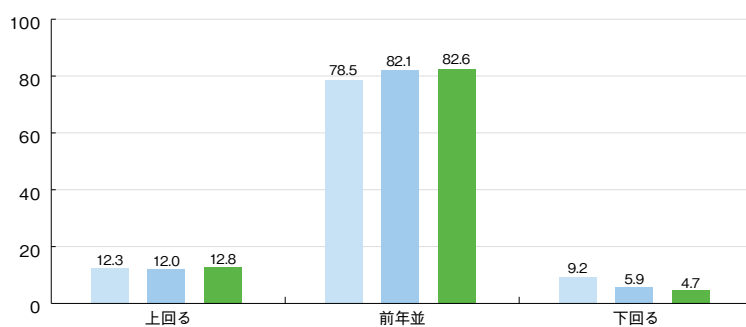
支給率(%)



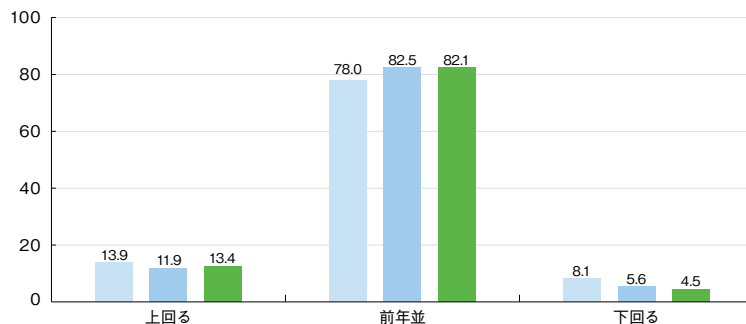
支給金額(%)



前年対比(支給率)(%)



前年対比(支給金額)(%)



《支給率は?》

「支給する」と回答された方は以下の項目もご回答ください

「支給率」は「0.6~1.5ヵ月」の合計が60.3%（前年比0.3ポイント減少）で、前年調査に引き続き高い割合となり、平均的な支給率となっています。また「1.6ヵ月以上」の高支給率も30.8%（前年比1.6ポイント増加）とほぼ前年調査並となりました。

《金額では?》

「支給金額」は「20~30万円未満」が中心で、支給金額では「20~30万円未満」が前年比0.8ポイント増加の30.5%で最も高い割合となりました。「30万円未満」までの合計が全体の48.3%（前年比4.1ポイント減少）を占めています。

《支給率、対前年比では?》

支給率では「前年を上回る」が前年比0.8ポイント増加の12.8%、「前年並」は前年比0.5ポイント増加の82.6%、「前年を下回る」は前年比1.2ポイント減少の4.7%となりました。

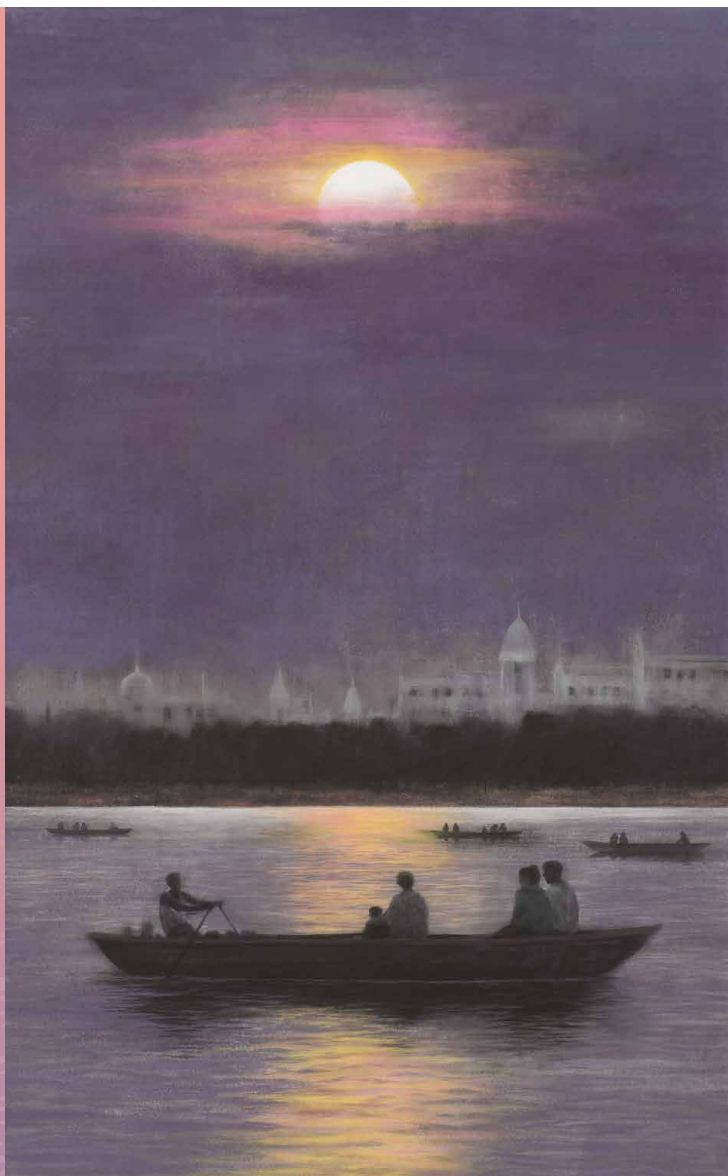
《支給金額、対前年比では?》

支給金額では「前年を上回る」は前年比1.5ポイント増加の13.4%、「前年並」は前年比0.4ポイント減少の82.1%、「前年を下回る」は前年比1.1ポイント減少の4.5%となりました。

京都中央信用金庫所蔵品展

風水に涼む

出品 池田遙郎、木村秀樹、関主税、堂本阿岐羅、
作家 西野康造、西野陽一、箱崎睦昌、三橋遵ほか



懐梅の河カングス 2016年/国府寛

坪井明日香作品収蔵記念特別展示

2023年 **7/20木** - **8/31木** (入場無料)

開館時間：午前10時～午後5時(入場は午後4時45分まで)

休館日：月曜日

主催：公益財団法人中信美術奨励基金

協力：京都中央信用金庫

中信美術館



■お問い合わせは財団事務局 京都中央信用金庫 総合企画部 TEL.075(223)8385 FAX.075(223)2563

京都市上京区下立売通油小路東入西大路町136-3(京都府庁正門西約100メートル)専用駐車場はございません。地下鉄：丸太町駅下車10分 市バス：堀川下立売下車2分 TEL.075(417)2323

感染症対策(ご来館のお客様へのお願い) ・発熱や咳など風邪のような症状がある方はご来館をお控えください。・最新情報は「中信美術館」のホームページにてお知らせします。



題不詳(唐織追想シリーズ) 1990年頃/坪井明日香

発行 | 2023.7

京都中央信用金庫 総合企画部

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町91番地

TEL (075) 223-8385 / FAX (075) 223-2563

URL <https://www.chushin.co.jp>

印刷 | 佐川印刷株式会社

